

「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録について

四国遍路は、徳島・高知・愛媛・香川の4県からなる弘法大師空海ゆかりの八十八箇所霊場を巡る全長1,400kmに及ぶ壮大な回遊型巡礼であり、その背景には、四国の自然や文化が深く関わっており、古き良き日本の伝統的景観が生き続けています。

四国遍路は、多様な宗教・思想を受容し発展させるという日本固有の文化を体現し、往古の修行や巡礼形態を現在に伝え、今なお人々を救済し癒し続けている我が国を代表する巡礼であり、人類全体の生きた文化資産として将来の世代へ引き継いでいくべきものとして、世界文化遺産にふさわしいものです。

四国4県をはじめとする産官学民の関係団体は、平成20年の国の審査結果を受け、平成22年3月16日に『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会を設立し、これまでさまざまな取組みを積み重ねてきました。

これらの取組みの成果として、平成28年8月8日には、新たな提案書を文化庁長官へ提出したところです。

以上のことから、国におかれましては、以下の事項について、格別の措置を講じられるよう、強く要請するものです。

記

○「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産国内暫定一覧表への追加記載

多様な宗教・思想を受容し発展させるという日本固有の文化を体現し、往古の修行や巡礼形態を現在に伝え、今なお人々を救済し癒し続けている「四国八十八箇所霊場と遍路道」について、世界遺産候補として暫定一覧表への追加記載を行うこと。

平成30年3月22日

文部科学大臣 林 芳正 殿

徳島県知事 飯泉嘉門

高知県知事 尾崎正直

愛媛県知事 中村時広

香川県知事 浜田恵造

「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会
会 長 千葉 昭（四国経済連合会会長）